秋田大学医学部保健学科

後援会だより

No.20　平成22年４月

目　　次

外部評価を受審して　保健学科長　浅沼　義博…… 2
ご卒業おめでとうございます　後援会会長　波多野善明…… 3
卒業祝賀会　謝辞　作業療法学専攻４年次　三橋　力也…… 4
2009年の看護学専攻　看護学専攻主任　石井　範子…… 6
理学療法学専攻の動向　理学療法学専攻主任　工藤　俊輔…… 7
総体としては順風満帆です　作業療法学専攻主任　新山　喜嗣…… 8
看護学専攻の臨地実習について　看護学専攻実習委員　伊藤登茂子…… 10
理学療法学専攻の実習について　理学療法学専攻　大澤諭樹彦…… 11
作業療法学専攻４期生の総合臨床実習を終えて　作業療法学専攻　高橋　恵一…… 12
平成21年度保健学科教育賞の受賞によせて　看護学専攻　講師　長岡真希子…… 13
平成21年度保健学科教育賞受賞を受けて　作業療法学専攻　助教　津軽谷　恵…… 14
学生からのメッセージ
・４年生を迎えるにあたって　看護学専攻３年次　菅原　夏希…… 15
・１年間を振り返って　看護学専攻１年次　石黒なつ美…… 16
・４年間を振り返って　理学療法学専攻４年次　青山　宗太…… 17
・わたしの大学生生活　理学療法学専攻１年次　甲斐　学…… 18
・卒業を前にして思うこと　作業療法学専攻４年次　神馬　歩…… 19
・１年間を振り返って　作業療法学専攻１年次　三浦　拓也…… 20
・陸上生活を振り返って（学生表彰：優秀賞）　看護学専攻４年次　菅原　純子…… 21
・医学部柔道部に入部して（医学部長表彰）　作業療法学専攻３年次　吉田　雄哉…… 22
サークル活動
・ASMCの活動を通して学んだこと
秋田スポーツメディカルコンディショニング研究会代表　理学療法学専攻３年次　池田　光範…… 23
・庭での１年　園芸農業クラブsaryo代表　作業療法学専攻３年次　吉田　雄哉…… 24
・環境の大切さ　区画活性課代表　作業療法学専攻３年次　麓　文太…… 25
・学務委員会，この1年を振り返って　学務委員長　工藤　俊輔…… 26
・平成21年度入学試験について　入試委員長　水沼　秀夫…… 28
・ご入学を祝して　放送大学秋田学習センター所長　吉崎　克明…… 29
・イギリスのホスピスにおけるリハビリテーション　理学療法学専攻　進藤　伸一…… 30
・晴れの日に島を訪れた旅人－思い出の山旅、その１、屋久島－　理学療法学専攻　岡田　恭司…… 31
新任教員紹介…… 33
平成21年度秋田大学医学部保健学科入学試験実施状況…… 34
平成21年度日本学生支援機構奨学生数…… 34
平成21年度卒業生進路状況…… 35
平成21年度後援会決算書…… 36
平成22年度後援会予算書…… 37
平成22年度後援会役員・総代名簿…… 38
大学の行事等（平成21年４月～平成22年３月）…… 39
後援会会則…… 40

外部評価を受審して

保健学科長
浅　沼　義　博

陽春の候，後援会の皆様には，いかがお過ごしでしょうか。今，世界はバンクーバー冬期五輪で沸き返っています。女子フィギュアスケートで浅田真央がトリプルアクセルを3回成功させて銀メダルを獲ったことは快挙ですが，私は女子モーグルの上村愛子が長野五輪での7位入賞から1段づつ順位を上げて，4回目の五輪で4位にまでたどり着いたことに最も感銘を受けました。さて，本年も後援会だよりをお届けする季節になりました。平成21年度の保健学科の現状ならびに外部評価結果について，少し述べさせていただきます。

まず平成21年度の学生数は，4年次については，看護学専攻79名，理学療法学専攻17名，作業療法学専攻19名で計115名，3年次については，看護学専攻84名，理学療法学専攻22名，作業療法学専攻20名で計126名，2年次については，看護学専攻70名，理学療法学専攻20名，作業療法学専攻19名で計109名，1年次については，看護学専攻72名，理学療法学専攻18名，作業療法学専攻18名で計108名です。従って，合わせると，看護学専攻305名，理学療法学専攻77名，作業療法学専攻76名で合計458名になります。

平成21年2月に行われ，本学3期生が受験した国家試験の合格率は，看護師98.6% (71/72)，保健師98.8% (80/81)，助産師100% (4/4)，理学療法士100% (17/17)，作業療法士100% (19/19) でした。いづれも全国平均を大きく凌駕し，概ね満足すべき結果でした。特に作業療法士においては，全国平均81.0%であり，本学の100%という成績は特筆すべき良い結果です．平成21年度卒業生は，これ以上の成績であることを祈っている所です。

教員数は，看護学専攻では教授11名，准教授5名，講師4名，助教13名の計33名，理学療法学専攻では，教授4名，准教授2名，助教3名の計9名，作業療法学専攻でも教授4名，准教授2名，助教3名の計9名であり合計51名です。大学院につきましては，平成21年4月に新たに博士後期課程を開設し，4名の一期生を迎えることができました．3年後には，晴れて博士（保健学）が誕生するものと期待しています。

さて平成21年度の保健学科における大きな事業の1つに，「外部評価を受審したこと」が挙げられます。平成16年度から，従来の国立大学は国立大学法人となりました。その際，国立大学法人毎に向こう6年間分の中期目標・中期計画を文部科学省に提出し，その円滑な実施が義務づけられております。この第1期中期目標・中期計画（平成16～21年度）を終了するに当たり、秋田大学医学部保健学科として平成17年度～20年度の4年間の教育・研究・社会貢献・管理運営の実績を対象として外部評価を受けました。全国レベルからみた本学の現状と問題点を明らかにし，それを基にして，今後の方向性を自ら示すことが目的です。2009年10月26～27日の2日間，信州大学 市川元基教授，三重大学 大西和子教授，弘前大学 對馬均教授の3氏を外部評価委員としてお招きし，実地調査を受けました。そし

てその評価結果を12月初旬に拝受しました。その結果は外部評価報告書として，2010年3月に300頁余の冊子として公刊いたしますが抄出すると，下記のごとくです。

1．管理運営体制全般では，非常に優れている／が1項目，優れている／が2項目，良好／が2項目。
2．教育活動では，優れている／が8項目，良好／が3項目。
3．研究活動では，優れている／が2項目，良好／が5項目。
4．社会貢献活動では，優れている／が7項目，良好／が1項目。

合計すると，非常に優れているが1項目，優れているが19項目，良好が12項目です。一部改善を要する／や改善を要する／はありませんでした。そして全体評価として，「博士課程をもつ大学院大学として，研究活動や外部資金獲得の点で，一層尽力して下さい。今後は大学院生の確保の困難等も予想されるが，秋田大学に保健学科・保健学専攻があることで秋田県の医療人や医療の質を向上させ，常により良い医療を幅広い人々に提供することを目指して頑張っていただきたい。」とありました。この良好な評価結果は，学生，教職員，同窓会や後援会の皆様が，これまで営営と努力し結果を積み重ねてきた賜物です。昨今は，政治や経済が極めて不安定な情況にあり，その煽りを受けて「保健医療の崩壊」が叫ばれています。この様な逆境にあっても，皆様とともに地道に努力しこの様な良好な評価を得ることができました。

私共教員は，今後も教育・研究・社会貢献に精一杯努力する所存です。後援会の皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご卒業おめでとうございます

後援会会長
波多野　善　明

保健学科卒業生，保健学専攻修了生ならびにご父兄の皆様，ご卒業おめでとうございます。また，本学の教育・研究環境の充実にご尽力され，学生をご指導頂きました浅沼学科長はじめ教職員の皆様に，後援会を代表して御礼申し上げます。

卒業生の皆さんはこれまで青春時代を謳歌する一方，勉学にいそしみ研鑽を積んできました。これからは勉強してきたことを踏まえ，実際の臨床に参加することになります。期待と不安で一杯と思いますが，同じ医療に携る者としてお話したいと思います。私は大学病院在職中や，現在勤務している病院の教育責任者として多くの研修医の育成に携わってきましたが，医師として「自分の考えを持つ」ように常に心がけて欲しいと思っています。看護師，理学療法士，作業療法士として巣立つ皆さんも同じであり，実際の臨床の場で多くの患者さんに接し，より多くの経験をし，自分の考えを組み立てることにより問題解決

能力を身につけていけば，その後も大きく飛躍できると思います。昨今は各病院での教育システムの充実が図られていますが，やはり一番大切な事は，そのシステムに頼るだけでなく，医療人各自が患者さんの診療を通じて自ら問題意識を持って積極的に考え，行動していくことです。そうすることにより実りのある職場，医療人となることでしょう。

本学の益々のご発展と卒業生のご活躍を祈念いたしまして，祝辞とさせて頂きます。

卒業祝賀会　謝辞

作業療法学専攻4年次
三　橋　力　也

本日はわたしたち卒業生のためにこのような盛大な会を催していただき誠にありがとうございます。学科長の浅沼先生をはじめ，ご多用にも関わらずご臨席くださったご来賓の皆様方，父母の皆様方から多くの温かいお言葉を頂戴し,卒業生一同,感謝の気持ちでいっぱいです。

期待と不安を抱えて迎えた入学式から早いもので四度目の春を迎えました。先ほど執り行われました卒業式では大学生活を終えた達成感とともに四年間の思い出を感慨深く思い返していました。テストに苦しんだ日々，アルバイトに励んだ日々，部活動で汗を流した日々，仲間と語り合った日々，臨床実習・卒業論文に追われた日々，辛いことや苦しいことを多く経験しましたが，それに負けないほど多くの楽しい思い出，笑顔溢れる大学生活を送り幸せな日々を過ごすことができました。

大学生活の送り方は個々人によって様々であったと思いますが，卒業生一人ひとりが毎日を充実して過ごすことが出来たのではないかと思います。充実した毎日を送りながら今日の卒業という日を無事に迎えることが出来たことは先生方，大学職員の方々，ご父母の皆様の温かいご支援と素晴らしい仲間との出会いがあったからであると実感しています。

はじめに，入学以来私たちを見守ってくださった先生方，本当にありがとうございました。夢である専門職になるために勉学に励む私たちに，先生方は優しさと厳しさを持ち合わせながら支え続けてくださりました。臨床実習の際は最高の理解者であり，自分のふがいなさや現実の厳しさに直面した私たちの悩みや苦しみを共有し，励ましてくださいました。また，先生方は大学生活において最も身近な人生の先輩でもありました。プライベートな場面で先生方と接することで過去から現在，未来へ至る自分自身の人生に対する考えを見つめ直す機会を与えていただくこともありました。先生方から教えていただいたこと一つ一つを胸に，社会に出ても日々の努力を怠らず成長していきたいと思います。

次に，わたしたちの大学生活がより快適なものになるように環境を整えてくださった方々，本当にありがとうございました。学務課の方々，学内清掃員の方々，図書館職員の

方々，生協スタッフの方々など，多くの方々が私たちの大学生活を支援してくださいました。皆様の日々の支援の積み重ねにより私たちは快適で安心できる大学生活を送ることが出来ました。皆様の支援が多くの場面で私たちの目の届かないところで当たり前のように行われているため感謝の言葉を伝える機会は少なかったと思います。この場をかりて四年間の感謝を伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。

そして，両親・家族の皆様，ありがとうございました。大学の四年間だけではなく，長い間，多大な愛情を注いでいただきました。常に私たちにとっての精神的な支柱でした。私事ではありますが，四年間一人暮らしをしながらカリキュラムをこなし，アルバイトに勤しむ中で，毎日働きながら家族を支えていくことの強さ，家庭環境を整え精神的に支えていくことの偉大さを痛感し，両親・家族に対する感謝と尊敬の想いが溢れました。私のように一人暮らししていた者だけではなく，自宅から通学していた者も四年間の大学生活を経験する中で，ご両親・ご家族に対する感謝や尊敬の気持ちを実感したことと思います。来月から私たちは未熟ながらも社会人の一員としての道を歩んでいきます。両親に負けないよう精進し，今までとこれからの恩返しをしていきたいと思います。

私は学部学生でありますが，本日は大学院の第二期生として卒業される方々もこの場におられます。僭越ながら，大学院生の先輩方の代わりに御礼申し上げます。大学院の設立は私たちの卒業後の選択肢の広がりを意味します。夜間開講制という就学体系をとっていただけたことで経済的にも自立でき，臨床経験を積みながらより高度な勉学に励む機会を得ることが出来たことと思います。大学院卒業の先輩方も私たち同様，先生方をはじめとし，支えてくださった方々に感謝の気持ちを抱いていることと思います。本当にありがとうございました。

今回，卒業生の代表として謝辞を述べさせていただく機会を頂戴し，私は言葉で感謝を伝えることの難しさとともに言葉で感謝を伝えることの出来るありがたさを実感しています。大学四年間を通し，思いを伝えることの重要性を学びました。このような日常に潜む大切なことに気付かせてくださったのも，皆様との出会いやご支援があったからです。本当にありがとうございました。

高校時代の恩師が出会いには別れが伴うこと，別れの時は終わりと始まりという人生の切り替えの時であり，新たな一歩を踏み出す時であることを説いてくださいました。秋田大学に入学し個性豊かな素晴らしい方々と出会いました。今，私たちは卒業というライフイベントを通して出会えた人々との別れ，学生生活の終わりの時を迎え，社会人としての始まりのスタートラインに立っています。

私たちは再び四年前と同様に新しい一歩を踏み出そうとしています。四年前と同様に不安と期待を抱えていますがそれに加え，秋田大学で過ごした四年間の思いも今は胸に抱えています。この思いを心に留めておくのではなく，これからの人生の糧として新たな一歩を踏み出し，歩いていきます。秋田大学の名に恥じぬよう日々精進し，感謝の気持ちを忘れず，また謙虚な姿勢で卒業生一人ひとりがそれぞれの道で活躍していきたいと思います。

最後になりましたが，秋田大学医学部保健学科の益々のご発展と，教職員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして卒業生代表の謝辞とさせていただきます。

四年間本当にありがとうございました。

2009年の看護学専攻

看護学専攻主任
石　井　範　子

四月に水沼秀夫教授から専攻主任を引き継ぎ，あっという間に１年が経とうとしております。ここで看護学専攻の１年を振り返ってみたいと思います。

新年度スタートもつかの間，ブタインフルエンザの人から人への感染が認められ“新型インフルエンザ”の発生となりました。水際作戦も虚しく日本にも上陸し，保健学科にも緊張感が漂いました。感染者が出た場合の病状に対する心配に加えて，臨地実習への影響が大きいことが考えられたからです。一時，鎮火したかのように見えた感染は９月頃から再び猛威をふるい，看護学専攻の学生にも罹患者が出ました。重篤な病状に陥った者はなく，臨地実習も何とか無事に終了しました。また，不合格では就職内定が取り消される国家試験受験の４年生にも大きな不安材料でした。幸い，受験できなかった学生はなく，国家試験は終了しました。これまでと違った意味での緊張の続いた１年だったと感じております。

さて，看護学専攻の１年を振り返ると，３月には３期生81名が巣立ちました。79名が就職し，１名が進学しました。就職者の内訳は，保健師５名，助産師４名，看護師69名，他職種１名です。就職難となってしまった日本社会ですが，看護職の需要の大きさが窺われます。就職先は秋田県内が36名，秋田県外が43名でした。秋田県内では秋田大学医学部附属病院への就職が27名（33.3%）で最も多く，そのほかの一般病院５名，保健所３名でした。県外では例年と同様に，東北大学病院（７名）を筆頭に，仙台市や関東圏の病院への就職者が目立ちました。

その３期生の国家試験受験では看護師国家試験・保健師国家試験で，それぞれ１名が惜しくも不合格となり，本専攻の合格率は，保健師98.8%，助産師100%，看護師98.6%でした。

４月には新入生70名を迎え入れました。入学者の出身地は秋田県内が60%，岩手，山形，青森等の県外が40%でした。10名の３年次編入生も迎えることができました。新入生も編入生も本学での学業生活の１年目を終えようとしております。

大学院では３月に修士課程の１期生が修了しました。看護学領域では８名が修士論文の審査に合格し修了しております。４月には博士課程が設置され，これまでの修士課程は博士前期課程，博士課程は博士後期課程となりました。博士前期課程に９名，博士後期課程に２名が入学しました。いずれも医療や看護教育の現場で活躍している社会人学生で，仕事と両立させながら学業に励んでおります。これで保健学科は学部・博士前期課程・博士後期課程のフルセットの教育が実現したことになります。学部卒業生のキャリアアップのためにも大学院入学を期待しているところです。

教員の異動ですが，３月に地域看護学の宮本郁子教授，成人看護学の村山志津子准教授，基礎看護学の小稗文子助教，成人看護学の石塚理恵助教が退任されました。代わりに４月に基礎看護学に菊地由紀子助教，成人看護学

に宗村暢子助教，小児看護学に内山英里子助教が着任しました。
看護学専攻では学生の様々な側面に支援できるように，１～３年次生にはクラス担任制を，４年次生には小グループ教育のチュートリアル制をとっておりますので，必要な時にはご相談いただきたいと考えております。

ご父母の皆さまからのご支援・ご協力を，これまでと同様に，よろしくお願い申し上げます。

理学療法学専攻の動向

理学療法学専攻主任
工　藤　俊　輔

今年度の理学療法学専攻の様子を簡単にご紹介します。

今年度の大きなニュースは、4年生大学に昇格して初めての外部評価が昨年の10月に行われたことです。理学療法学専攻の課題としては理学療法についての専門科目と関連する教育科目(教養教育科目・基礎教育科目・専門基礎科目)との統合および、実習終了後のセミナーやワークショップの充実を図ることや臨床実習地の確保と臨床実習指導者に対する研修体制の確立を挙げました。研究について科学研究費は平成17年から20年まで毎年1件ずつ受給していることや、本講座で受給した科学研究費は総額1348万円となること。また、科学研究費以外の助成金でも総額で307万円受給しており、多方面での研究活動が積極的に行われていることを明らかにしました。また、助成金によらない学内外の共同研究はこれまで39件あり、さらに、各種受賞は平成17年に厚生労働大臣賞、第22回東北理学療法士学会「学会奨励賞」各1名がいることを示しました。

社会貢献活動としては、理学療法士の人材育成について、平成17年から20年までの4年間で研修会は11回，特別講演等は5回実施していました。理学療法士以外の人材育成活動としては、中学・高校生対象とした人材育成活動は高大連携事業を中心に地域への理学療法に関わる啓発を積極的に行い、この4年間で18回実施していました。さらに、一般市民対象の理学療法に関わる啓発活動は子育てや体力作りの講演等を通して43回実施し、さらに、医師や看護師、特別支援学校教諭、介護福祉士、ホームヘルパー等の専門職を対象とした人材育成活動が、この4年間で175件あり、平均年44回実施していました。これは、これまでおよそ週1回は専門職を対象とした人材育成活動を行ってきたことになります。このように外部評価を通して本専攻のこれまでの取り組みを明らかにできたことは今後の方向性を展望する上で極めて有意義だったのではないかと思っています。

教員の人事では退職された稲場斉教授の後任として岡田恭司教授が赴任しました。岡田恭司教授は秋田県における腫瘍治療のエキスパートのひとりです。山行が趣味で保健学専攻内に、早速、新風を起こしています。また、1998年から12年間助教として活躍してきた大

澤諭樹彦さんが退職し、JICA（国際協力機構）のプロジェクトメンバーとしてミャンマーに派遣されることになりました。大澤さんとは国際協力事業を機にインドネシアで知り合い、小生が短期大学部時代にお誘いした経緯があります。一昨年、日本福祉大学で博士（開発学）を取得しています。ご自分のテーマであるCBR（地域社会に根ざしたリハビリテーション）の研究を実践的に深める意味でも新たな飛躍に繋がることを願っています。また、昨年、英国でホスピス（Hospice）におけるQOLの研究をすすめてきた進藤伸一教授が1月に帰国し、業務に復帰しました。英国での研究成果を期待しているところです。次に、学生の状況です。保健学科4期生15名はこの3月に卒業予定です。この学年は途中下車したものも何人かいましたがみんなで力合わせ、国家試験全員合格を目指し頑張っています。

1年生は元騎手の学生やアメリカで心理学を学んできた学生も入り、ユニークで活気のある学年になりました。2年生は、1週間の理学療法技術学実習を終え、初めての実習報告会に臨んでいるところです。この2年次の理学療法技術学実習は本来であれば昨年11月から12月初めにかけて毎週1回、計5回行う予定でしたが、新型インフルエンザの流行で2月15日から1週間の集中実習に変更しました。新型インフルエンザも今のところ下火になり良い判断だったと思っています。3年生は臨床実習Ⅰを全員無事終了し、4月から始まる臨床実習Ⅱ、Ⅲに備えています。実習は各々の総合力を試される学びの場になります。日々の体調管理を含め、患者さんや障害のある方やお子さんに対し、最善の状態で臨めるよう努力して欲しいと願っています。会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

総体としては順風満帆です

作業療法学専攻主任
新　山　喜　嗣

4年制の保健学科に最初の学生を迎え入れ，そして，その学生が卒業してゆき，それも，この3月には4度目の卒業生を送り出すことになりました。われわれ教員にとって，4年制の保健学科が設置されてからほんの僅かな時間の経過のようにも思えるのですが，しかし，年月は確実に進行していることは間違いなく，この間，大学院についても，修士課程の最初の学生を迎え入れ，そして，卒業してゆき，さらには，博士課程後期の最初の学生も迎え入れております。おそらくこのような慌ただしさが，時間の経過を短いものにわれわれ教員に錯覚させることとなっているのでしょう。早く，巡航速度で安定した教育活動を実施したいと希望することは，しばらくは贅沢な夢なのかもしれません。

しかし，考えてみますと，ヒトの人生自体が巡航速度での平穏な生き方が出来るかというと，どうも全く叶わないことが大部分のように思われます。一生のどの分節にも，そのときどきの大変な課題が目の前にあり，それを乗り越えることで精一杯の時期でどれも占

められているようなのです。とくに，本作業療法学専攻に籍をおく学生にとっては，それこそ，風浪のたたない平穏な学生生活は見果てぬ夢のようなものであり，目前の課題を何度も乗り越えてやっと卒業までたどり着けるのが実情ではないでしょうか。その学生を背後で支えて下さっております御父兄の方々にとっても，子供さんが万事にわたり順風満帆の学生生活を謳歌しているように見えることはむしろ稀であり，大なり小なりの躓きを乗り越えつつの学生生活のように御覧になっているものと推察いたします。

もちろん，学業そのものが順調に予定通りに進んでいるか否かは，その中心的でもっとも重要な箇所であることは間違いありません。ただし，そうなのですが，近年は心身の不調が学業の途中で飛び出すことが少なくありません。とくに，心の健康の不具合については，思わぬところでそれが学業を順調に進めることの隘路となることがあります。われわれ教員としても，その前兆の段階で出来る限り察知をしつつ学生の困難を最小限度のものとしたいと考えておりますが，場合によっては御父兄からのご助力が大きな力となることがありますことからその節はよろしくお願いいたします。幸か不幸か，一時代前の学生と異なり，昨今の学生は自らの苦悩を，教員や御父兄といった大人の世代に隠蔽することなく，比較的打ち明けてくれることが多くなった印象をもちます。かつては，18歳も越えれば，友人ならともかく，世代が異なる他者にある種の隔壁を作り上げて，なかなか胸の内を吐露するということはなかった気がします。このような昨今の学生の変化を，独立が出来ない未熟な依存とみるか，そうではなく，大人社会への警戒心の自然な軽減とみるかは，もう少し時間をかけて考えてみたいところです。

最後に，平成21年3月卒業の作業療法学専攻3期生19名について御報告します。全員が無事国家試験を合格し，これで1期生が卒業して以来，3年連続で全員が合格という快挙を成し遂げております。また，この3期生のうち8名が県内，11名が県外へ就職しており，これは近年のおおよその傾向を追随しております。さて，平成21年の4月には18名が新入生として入学しましたが，驚くべきことに16名が県内の出身者で占められております。われわれの保健学科では，現在のところいわゆる県内枠といったものは設けておりませんので，これはひとえに県内の優秀な学生が多く受験したことを物語っております。これが，只一回の偶然なのか，今後の入学者の動向を反映するものなのかは，もう少し年度を累積してみないとわからないと思っておりますが，仮に傾向的に今後も続くとなれば，先ほど述べた就職先に関しては，県内への比重が増すことはまちがいありません。また，大学院への平成21年4月の入学については，前期課程へは作業療法学分野に2名，後期課程へは高齢者生活機能支援科学分野のうちとくに作業療法学に関わる領域の研究を目ざして1名が入学しております。時間が前後しますが，平成21年3月には，大学院修士課程を3名が，立派な修士論文を書き終えて予定通りに卒業しております。修士課程の卒業についても，われわれとしては初回の卒業者を得たわけであります。

このように，学生の心の中にときに発生したかもしれない風浪を度外視すれば，本作業療法学専攻総体としてはこのようにまことに順風満帆な状況がつづいております。でも，このことについては，素直に喜ぶべきことと私は考えております。

看護学専攻の臨地実習について

看護学専攻実習委員
伊　藤　登茂子

看護基礎教育における臨地実習は，看護に必要な知識と技術を統合し，対象に適切な看護活動を適用することを，体験を通して学習するものです。それには人間の身体と心を理解できる知識，看護の役割を実践するのに必要な判断力・技術・倫理観が求められます。それらの基礎的学習を基に,実際の場に臨み,対象の健康上の課題を見極め，適切な方法を選択して看護を実践する事になります。

臨地実習の場は，現在，秋田大学医学部附属病院をはじめ，地域の協力病院，保育所，小児科クリニック，特別養護老人ホーム，福祉施設，社会復帰施設，保健所および市町村，と多様です。対象は学習領域によって，年齢も,健康上の課題も異なる特徴が存在します。学生個々の体験は限られますが，グループで共有するためのカンファレンスをとおして，看護の適用の多様性と発展性を学びます。

こうした実習の展開には，医療のダイナミックな動向や,地域に生じている健康問題,さらに人々の価値観によって多少なりとも影響を受けます。ここ数年来の在院日数の短縮,平成21年度の新型インフルエンザの流行は,教員にとっても気がかりな事でした。

幸い大きな問題状況は無く済みましたが,学生の実習内容に関わる課題以外で，これほど緊張感と共に過ごした年はなかったように思います。人々の価値観という点でも，教育機関である病院にあってさえ，個人の権利が優先されますので，学生が受け持たせていただくことに同意が得られない事もあります。とはいえ，学生の教育に協力しましょう，といった積極的な姿勢の方から，初めは難色を示されていても学生の誠意ある姿勢や援助に触れ，感謝の言葉を何度も述べて下さる方の方が多いです。

学生の知識や技術は,確かに発展途上です。しかしながら，分からない事が分かるようになりたいと思う探究心や，学習を積み重ねる努力，そして何より自分自身が関わっている対象の健康を願う，温かで好意的な関心があるなら，未熟な部分が仮にあったとしても，対象との信頼関係は保たれるものです。
たいていの学生はどの実習も初めての場，それまでご縁のなかった患者さんや地域住民の方々，そして多くの医療職者等と関わりながら学習を進めて行く事になるため，ともすると，コミュニケーションに自信のない学生にとっては，苦痛を感じる機会にもなります。もしも実習期間中にそのような問題を抱えていそうな気配を察知されましたら，ご父母の皆さまには,「きっと待たれているはずだと思う」と声を掛けていただければと思います。

学生が心身ともに健康で実習に臨み，多くの糧が得られますよう,今後ともご協力の程,よろしくお願いいたします。

理学療法学専攻の実習について

理学療法学専攻
大　澤　諭樹彦

平成21年度の臨床実習では1年生から4年生までの各学年が、臨床教育を通して貴重な体験を積むことができました。まず、1年生では見学実習形態の基礎臨床実習Ⅰ(1週間)を、2年生は理学療法技術実習で評価実習を行ないました。そして､3年生でクリニカルクラークシップによる体験実習形態の基礎臨床実習Ⅱ（2.5週間）を行い、4年生（4期生）では臨床実習Ⅰ（4週間)、臨床実習Ⅱ（8週間)、臨床実習Ⅲ（8週間）を通して担当患者さんへ実際に評価と治療を実践しました。

今年度は新型インフルエンザの影響で、2年生の後期に行なう理学療法技術実習が従来の11月から2月に急遽変更となりましたが、実習施設の協力により無事に終了することが出来ました。この2年生の実習では、当専攻教員の指導の下で学生が始めて患者さんに評価を行ないます。学生同士の練習ではうまくできていた検査の説明も患者さんへはうまく伝えられず、実習当初はコミュニケーションに戸惑う場面も多々ありました。しかし、実習を重ねるごとに徐々に接し方に慣れ、的確に説明することが出来るようになりました。実習を通して学生の成長を間近で実感できるのは、教員にとって嬉しい瞬間です。学生は誰もがここから出発して4年生の実習を終える頃には大きく成長していくので、これからの成長が楽しみです。

次に3年生、4年生の実習の様子を実習終了後のアンケートから紹介します。実習全体を通した感想として、ほぼ全ての学生が実習内容に満足し学習成果が高かったと述べていました。自由回答の内容からは、「理学療法だけでなく作業療法なども見学させてもらい良い経験となった」、「勉強会や回診で発表したりカンファレンスや手術見学ができて良かった」、「様々な疾患の理学療法を見学できて良かった」と多岐に渡る見学や体験から多くを学ぶ機会になっていることが分かります。また、実習を通して自分自身の課題とも向き合う機会になっており、「患者さんとのコミュニケーションをもっと円滑にしたい」、「医師や看護師などの他部門との良好な連携を築けるようにしていきたい」、「知識不足や技術の曖昧さを改善したい」、「積極的に自分の意見を述べられるようにしたい」などが挙げられていました。これらの課題は理学療法士として働いてからも求められる事柄なので、各自がこれらの課題を今後の目標として持ち続け、卒業後も大きく成長していってほしいと願います。

平成21年度も臨床実習施設として多くの施設にお世話になりました。実習地先は総合病院から介護老人保健施設、小児施設と多岐に渡っており、学生が様々な臨床の経験を積む機会になっています。学生が充実した臨床教育を受けられるように、私達教員は臨床実習施設との連絡を密に取り連携を図っていますが、ご家族の支援がなによりも学生の支えになっています。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

作業療法学専攻４期生の総合臨床実習を終えて

作業療法学専攻
高　橋　恵　一

今年度の作業療法学専攻４期生の総合臨床実習は18名が臨み，10月には全員が何とか3期18週間の実習を終えることができました。しかしながら，今年度はなんといっても世界的に大流行した新型インフルエンザの猛威に学生・教員とも怯えながら実習を終えたことが印象に残ります。１期目の半ばあたりから日本でも罹患者が増えだし，実習施設によっては県内に罹患者がでた場合，実習半ばであっても中断の措置をとらざるを得ないという方針を打ち出すところもありました。実は県内の罹患者があと少し早く出ていたら実習中断，その関係で出席日数が不足し実習の単位がでない，という事態に見舞われるところであった学生もおり，その猛威が過ぎ去った今はほっと胸をなで下ろしているところです。

なんとかその被害から免れた実習では，県内外の臨床実習施設と臨床実習指導者のご協力を得て，身体障害領域，精神障害領域，子どもの発達障害領域，老年期障害領域，地域リハビリテーション領域における作業療法を実際に体験させていただき，作業療法で必要とされる知識や治療技術を学びました。実習各期終了後には報告会にて，各学生が担当させていただいた対象者の症例報告を行いました。報告会では，学生同士，教員との活発な質疑応答や意見交換が行われ，期を追うごとに徐々に活発なやりとりや学んだ知識・技術を自主的に解説や披露するような場面がみられ，頼もしささえ感じました。各実習施設では，知識や技術以外にも担当させていただいた対象者や他の患者さん･指導者・他職種職員等とどのように接したらよいのかというコミュニケーション能力も十分養われたと思います。また，それ以前に社会人として，学生として，実習に臨む態度や姿勢を指摘された学生もおり，今後社会にでるにあたって教訓を得たことも多かったはずです。

現在，卒論を終え，授業もすべて終えた4年生は，3月1日におこなわれる国家試験に向けて猛勉強中であります。模試の結果も回を増すごとによくなってきており，3月31日の合格発表では学生･教員全員が笑顔になれるような結果が期待できそうです。4月からは社会人として，登録された作業療法士OTR: Occupational Therapist Registeredとして本学で学んだ知識や技術を思う存分発揮し，各地各分野で活躍されることを教員一同願っております。

最後になりますが，1年生からの臨床評価実習にはじまり，4年生の18週間の総合臨床実習に至るまで，学外で行われる臨床実習は教育に対する実習指導者及び施設のご理解とご協力により成り立っております。特に4年次の，総合臨床実習では大学を長期間離れての実習になりますので，学生の経済的・心理的な面などでの負担は大きく，ご父兄の皆様にも様々なご心配とご負担をおかけすることもあるかと思いますが，社会に貢献する作業療法士育成のため，何卒ご理解とご協力をいただきたく，今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成21年度保健学科教育賞の受賞によせて

看護学専攻
長　岡　真希子

はじめに，今回の受賞にあたり，教職員の皆様，保護者の皆様，何よりも評価してくださった学生の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

私は，教員となって，医療短大から数えて2010年で10年目となります。はじめの1，2年は全く余裕がなく，教えなければ，伝えなければと焦るあまり，全てが空回りしていました。その後，数年が経ち，学生の皆さんがどんなことを求めているのか，そしてどのように学び成長していくのかを知るにつれて，ようやく，大学での教員の役割は教えることが全てではなく，学生の皆さんの「学びたい」という意欲を引き出し，支援することだということに気がつきました。今現在,教員といってもまだまだ未熟で手探りのような状況ですので，今回の受賞は，正直喜びよりも戸惑いが大きく，よりいっそうの努力を期待されているものと身の引き締まる思いです。

今回の授業評価の対象授業は『家族看護論』でした。私がこの科目を担当して3年目になりますが，授業内容の決定から全て一人で計画した初めての授業科目でもあります。この科目は，後期後半(1～2月)の朝一番の1コマ目の選択科目ということもあり，真冬にわざわざ選択科目のために出席してくれる学生に損はさせたくないという想いで，試行錯誤しながら企画実施をしてきました。授業日程についても，手形キャンパスでの授業もある編入生でも受講しやすいよう，学務委員の先生方をはじめ教職員の皆様のご理解とご協力のもと調整していただき，大変感謝しております。授業内容は，これまでの学びを十分に活かしさらに学習を深めていく楽しさを知ってもらえればと考え，ニートやひきこもりなど現在の社会問題と我が国の家族形態の変化を考察したり，模擬事例検討会の演習を盛り込んだりしました。これによって，学生の皆さんも身近な内容として，比較的興味をもって受講してくれたのではないかと想像しています。また，授業の最後には出席カードを記載してもらっていますが，授業に対する反応が素直に書かれており，学生の皆さんの学習意欲が予想以上に高いことにも驚いています。

現代の保健・医療・福祉には様々な課題があります。私は講義の中で，できるだけ，臨地の専門職の皆さん，患者さん，住民の皆さんから聴き取った「今の声」を伝えたいと思っています。学生の皆さんには，その声をただ聴くのではなく，ぜひその声について深く考えてもらいたいと思って伝えています。そうすることで，学生自身が学びの必要性を感じ，机上の学習と実践を結びつけるヒントになるのではないか，そして，これらの課題を自身の問題として捉え解決への提言ができる専門職に成長してもらえるのではないかと考えています。今後も少しでも「もっと学んでみたい，考えてみたい」と思ってもらえるよう,私自身,常に学びながら授業に取り組んでいきたいと思います。

平成21年度保健学科教育賞受賞を受けて

作業療法学専攻
津軽谷　　恵

秋田大学に赴任してから今日まで，授業のたびに試行錯誤を繰り返して9年目になりますが，未だに自分が納得する授業ができずにいるところでしたので，今回，保健学科教育賞を受賞することができたことに正直大変驚いておりますが，評価をしてくれた学生たちに感謝して受賞を光栄に思い素直に喜びたいと思います。ただ，今回受賞したことにより，ハードルがさらに高くなるので，気が引き締まる思いです。

初めて講義を担当したときは，どのような方法だったら学生が理解しやすいのかをあまり考えずに，とにかく教えなければならないテーマに合わせて準備にかなり時間を費やしたのを覚えています。本当にこれで良かったのか学生に自分の伝えたいことが伝わったのか不安な気持ちだったのですが，学生に確認をすることもなく終えてしまったのを覚えています。当時の学生には本当に申し訳ないことをしたなという思いでいっぱいです。最初の頃は，一方的な教授が多く全体の雰囲気が堅苦しかったように思いますが，徐々に，学生へ質問をしたり，時には親しみやすい話題を提供して学生からの質問がしやすい雰囲気や状況を作ったり，今では，学生と一緒に考えるようなスタイルを実施したり，学生主体で進行していく時間帯も作ったりと，少しずつ授業のスタイルをその時のテーマによって変えていくことで，堅苦しい雰囲気からは脱したように思います。このように変化していったきっかけになったのが，学生たちの表情でした。学生の表情を見ていると，欠伸をしたり，眠そうにしていたり，寝ていたりと，たくさんの表情を正直にしてくれるので，これではつまらなくて退屈な授業であることを思い知らされます。授業の内容によりますが，臨床で経験した内容を話したり，多くの視聴覚教材を使用して紹介したりすることで，実際の臨床場面をほとんど知らない学生にとってはイメージがしやすく，興味を引く部分であるようで，うなずいてくれたり真剣なまなざしで授業に取り組んでくれたりします。そんな表情を見ると，とても嬉しくなり，もっとたくさんのことを教えたくなりますが，時々その気持ちが強くなって時間がオーバーしてしまうこともあります…。

これまでの自分が実施してきた授業を振り返ってみると，学生の反応を受けて，自分の教授方法が少しずつ変化しているので，私が学生に教えることで私自身も学生にたくさんのことを教えられて徐々に成長しているような気がします。この受賞がなければ，改めて自分を振り返ることもなく悶々としたままでいたと思うので，振り返る機会を与えていただき感謝しております。今回は学生から高い評価を頂きましたが，今後も，これに甘んじることなく，学生全員が理解しやすく，時には楽しく，また，常に新しい情報を提供し，高度な技術と知識を獲得できるような授業を目指し，研鑽して参りたいと思います。

学生からのメッセージ

4年生を迎えるにあたって

看護学専攻3年次
菅　原　夏　希

大学に入学して3年が経とうとしている。何もかも初めてで目の前で起こる全てが新鮮だった1年生，本格的に専門的な講義が始まり大学にも慣れてきた2年生，そしてグループワークや地域看護学の学習，病棟実習に取り組んだ3年生。後輩を見ているとあの頃の自分をふと懐かしく思い出す。まだ3年生と思っていたが，もう3年生と感じられずにはいられない。

大学生活で最も印象に残っていることは，病棟実習である。特に急性期・周手術期，慢性期・終末期看護実習が印象的だった。患者を受け持たせていただいたが，自分の無知と未熟さを強く実感した毎日だった。それでもこの実習期間で患者を捉える視点が変わったように感じる。患者の病態だけではなく，その人の性格や職業，生活，家族構成や家族一人一人との関係,今までの人生や物の考え方,患者自身の価値観などから，その人がどんなケアを必要としているかを常に考え実践していくことの大切さを強く感じた。日々，患者の状態や反応をみながら「どんなケアが必要か」,「そのケアや考えが自分の価値観によるものではないか」と，常に考えながら実践していった。手術直後，歩行が不安定で，自分から歩くことに消極的だった患者に，一日の目標を決め，学生である私も一緒に病室を歩いたり病棟内の散歩をしたりした。退院直前には歩行も安定し，階段も上り下りできるようになっていった。実際の病棟では，患者の病態や次々と起こる症状や変化に置いていかれるばかりだった。特に，急性期・周手術期の実習では患者の回復が学生である私の想像以上に早く，その変化についていくのがやっとであった。それでも一つ一つ理解していこうと先生や病棟看護スタッフ，実習グループのメンバーと協力し，支えてもらいながら学びや考えを深めていくことができた。そして，看護を学び始めたばかりの未熟な私を笑顔で受け入れてくださった患者には本当に感謝している。ケアする私が，実習期間で掛けていただいた言葉に日々元気をもらっていた。

この１年，グループワークや実習など，3年間で最も充実した日々を過ごせたように思う。1つの課題に対してグループで話し合いながら深く学ぶことができた。ここまで学んでくることができたのも，家族や先生方，仲間や病棟でお世話になった看護師や患者の支えと励ましがあってのことと思う。入学時には想像もつかないような貴重な経験を数え切れないほどさせてもらった。しかし，そのどれも一人では成し得ることのできないものば

かりだった。

もうすぐ4年生を迎える。実習，卒業論文，就職活動，国家試験と忙しい一年になる。不安はあるが，まずは目の前の課題を一つ一つ確実にこなし吸収して自分の学びとしていきたい。そして3年間一緒に学んだ仲間と過ごす最後の1年を，共に切磋琢磨し合いながら多くのことを乗り越えていこうと思う。3年間,あっという間に過ぎた。最後の一年を日々噛みしめながら過ごしていきたい。そして自分の目指す道に向かって惜しみなく努力したい。4年生の春を迎えるに当たって身が引き締まる思いである。

1年間を振り返って

看護学専攻１年次
石　黒　なつ美

不安と期待でいっぱいだった春からあっという間に季節が過ぎ，初めてだらけだった1年が終わろうとしている。

大学に入って，様々な場所から集まった同じ志を持つ友達ができたことは私にとって大きな刺激となった。さらに，秋田を離れた友達とも変わらず関係が続き，そのことがうれしくこれからもこの友情を大切にしていきたいと思った。

初めての専門科目では，まず，教科書の厚さと重さに圧倒された。最初の頃はパワーポイントでの講義に違和感を覚え，講演会を聴いているような気分になった。専門科目だとわかってはいたが，何がどう自分の将来につながるのかわからず，なんとなく講義を受けてしまうことも少なくなかった。

さらに，初めての夏休みは，2カ月という長さに嬉しさ半分，戸惑い半分という感じで，ばんやりと1日を過ごしてしまうことが多かった。とりあえずは前期の復習でもしようと思い立ったものの，2カ月という長さに自分を甘やかし，結局，何もしないまま夏休みが終わってしまった。来年は勉強に限らずともなにかしら計画的に取り組み，充実した夏休みを送りたいと思う。

夏休みに行われた初めての実習では，「おまたの里　就労センター」でお世話になった。おまたの里は入所型の施設で，入所者の方が畜産や園芸，木工などの作業を行いながら日課に従って生活していた。それぞれの方が自分の仕事を究められていて，一見どこに障がいがあるのかわからなかった。また，どの方も時間に厳守で自分も見習わなければならないと感じた。しかし,職員の方の話によると，全員で今の生活ができるようになるまで10年の歳月がかかったということだった。障がいのある人たちが職員の方々の援助を受けながらも，自立しようと努力し続けた結果，今があるのだと思い，援助が必要な人たちと援助をする側，双方に目を向けることができたいい機会となった。実習前は，どんな事をするのか，障がい者の方々と打ち解けられるか不安だったが，一緒に作業をしたり話をして，これから自分が援助者としてどうあるべきか

を考えるいい経験となった。

2年生になると病院での実習が行われる。未熟な私たちを受け入れてくださる患者さんや看護師の方々に失礼のないよう，その時の自分にできる最大限の準備をして実習に臨みたい。そのためにも，それまでに習った知識や技術を自分のものにできるよう日々の学習を怠らずに有意義な生活を送りたい。

4年間を振り返って

理学療法学専攻４年次
青　山　宗　太

大学に入学したと思っていたのもつかの間，あっという間に4年が経過し卒業となってしまいました。漠然としたイメージで理学療法士を志していましたが，大学に入って具体的な目標が見つかり，入学したときとは比べ物にならないくらい理学療法士という仕事のイメージが強固なものになりました。入学してすぐの新入生歓迎会で，先生から「みなさんの卒業を喜んでいるのはみなさんが将来出会うだろう患者さん達ですよ」という言葉を頂きました。この言葉に深く感銘を受け，これからどういう理学療法士になろうか考えることになる大学生活が始まりました。

自分が理想とする理学療法士は，「治療する」ではなく「支える」理学療法士です。「治す」いう表現は少なからず理学療法士の仕事としてあるかもしれません。しかし，治らないというと語弊はあるかもしれませんが進行性の疾患などで，完治が難しい方々はどうなるのか？私はそんな人たちを支えていく理学療法士になりたいと考えています。完治は難しいかもしれない。これから先，症状がよくなることも無いのかもしれない。そんな人たちの生活を少しでも暮らしやすいものに，少しでもすばらしい人生だったといえるように思ってもらえる手助けができるようになりたいと思っています。もちろん完治する人も，これから一生病気と付き合っていく人たちの支えにもなれるように努力し続けたい。

また，勉強以外で大学生活の中で一番学んだことといえば，「人とのコミュニケーションの大切さ」だと思います。理学療法学専攻のクラスは途中下車した仲間もいて16人という少ない人数のクラスでした。その少ない人数のクラスで一番大切だったことは人と人との関係だったのではないかと思います。グループワークが多く，共同作業することが多いこの専攻では，仲のよさ，悪さに関わらず，協力して一つのものを完成させなくてはいけませんでした。四年間で友情を超えた「仲間」と協力して一つのものを作り上げていく過程をたくさん体験できました。それは友達という関係のみではないこれから同じ現場に立つものとしてのチームワークというものを意識させられた四年間だったと思います。

最後になりますが，両親，学校の先生方，クラスメイト，様々な実習でご指導くださったスーパーバイザーの諸先生，患者の皆様，その他お世話いただいた全ての方々に感謝の気持ちを表したいと思います。四年間本当に

ありがとうございました。これから，より多くの患者さまを「支える」ことが出来る理学療法士になりたいと思います。 これから先，現場に出てから出会うことになる患者さん一人ひとりを肉体的だけでなく，精神的，社会的にもしっかりとサポートすることができ，少しでも私のエネルギーを分けることができるような理学療法士を目指していきたいと思います。このような未熟な私ですがどうぞこれからもよろしくお願いいたします。

わたしの大学生生活

理学療法学専攻１年次
甲　斐　　学

私は2009年の理学療法学科最後の社会人入試に合格することができました。私の経歴を簡単に書きます。私は現在２７才ですが、大学入学前はオーストラリアで競馬の騎手をしていました。そして，2008年2月に落馬事故に遭いました。脳の外傷のせいでブルスベンの病院に３ヶ月近く入院しました。幸い日常生活では問題なく回復しましたが，複視が残ってしまいました。そのために騎手への復帰ができなくなったしまったため転職を考え，理学療法士という職業を選択しました。

正直，私は大学に入学したばかりのころは，自分自身との闘いの連続でした。私は大好きだった仕事を辞めなければならなかったので，あのころに戻りたいなど考えてしまうこともありました。そして，仕方のないことまで考え，気分がひどく落ち込むことが何度もありました。過去の自分を忘れたい。私のこの自分自身との闘いは想像以上でした。しかし，どうにか自分の中での答えを見つけ出し，ようやく勉強に身が入り始めました。

一年次の前期，勉強は苦労するだろうなと予想はしていました。確かに予想していた通り，周りの仲間が簡単にできるような問題も私には全く理解できないことなど沢山ありました。しかし，どうにかして周りの仲間たちに教えてもらいながら前期の勉強は突破することができました。後期は人体解剖学実習，理学療法評価学，生活環境学などより専門的な教科もありましたが，なんとか私の納得ができる成績を残すことができました。

中でも印象に残っているのは理学療法学概論の授業でした。授業で理学療法士としての社会的使命や「もう一つの医療観」などは私自身の事故の経験からも深く考えることができました。「愛の実践としてのリハビリテーション」という言葉，その患者の能力的な価値ではなく，なにものにも還元されえない人間存在，人間人格そのものの価値と，その尊厳性をいっそう顕在化させようとする営み，これこそが私の考える「もう一つの医療観」の根底であると私自身の体験からも深く共感できました。

この一年間を振り返るとここには書ききれないほどいろいろなことを考え，そしていろいろなことを経験してきました。今まで出会ってきた仲間たち，先生，数多くの人々に支えられ感謝の気持ちでいっぱいです。これ

からもいろいろな出会いを大事にしながら自分を成長させ，三年後には患者さん・障がいのある方達にとって良い理学療法士になれるよう努力したいと思っています。

卒業を前にして思うこと

作業療法学専攻４年次
神　馬　　歩

ありきたりな表現ですが，大学生活を振り返ってみると，本当にあっという間だったなと感じています。しかし決して楽な４年間であったわけではなく，そのため思い出に残っているのは楽しいこともあれば，同じ分だけ辛いことや苦しいこともあります。特にテスト期間や課題に追われている時の，自分のしたいことが出来ない焦りや，実習中の孤独感や不安感は今でも忘れることの出来ない独特なものであったと思います。全て終わった今だから思うのですが，辛さや苦しさを感じていたのは自分が周囲に流され，何かを「させられていた」に過ぎないからでしょう。「作業療法士になりたい」と初めて思った高校生の頃から今に至るまでおよそ6年間，ずっとその気持ちが変わらなかったかというとそうではありません。同じ目標を持ったまま頑張って行くことは非常に難しいものです。実際に高校のとき思い描いていたような大学生活とは違い，作業療法についても勉強すれば分かってくるだろうと思っていたのが反対にどんどん分からなくなり，モチベーションが上がらないこともありました。そんな時は大抵，自分から学ぶ姿勢はなく，何をやっても「やらされている」だけの毎日になっていたのです。

反対にクラスの仲間と庭造りをした時は，自分たちから「進んでやってみる」姿勢があったせいか，不思議と暑さや疲れを忘れ毎日没頭したことを覚えています。また，庭造りで気がつかされたことは，自分たちが動くことでこんなにも周りは動いてくれるし，応えてくれるということです。残念ながら自分はそれに気がつくのも，取り掛かることも遅すぎていて，少しのきっかけで出来ることを躊躇してしまっていました。この躊躇は私の大学生活を邪魔してばかりであったと思います。もちろん目標を実現させるためには楽なことばかりではないのですが，辛いと感じている時，何が自分をそうさせているのか，どうすれば楽しくなるのかを立ち止まって考えてみる時間も必要だと思います。そして，自分が働きかけることで環境が変えられるなら，絶対にあきらめるべきではないのです。後輩たちには消極的にならずに，自分自身のためにも，今しか出来ないことにどんどん挑戦してほしいです。

随分生意気な文章を書いてしまいましたが，私自身それが出来ているのかというと実はほとんど出来ていません。そもそも自分がここまで来ることが出来たことですら不思議なくらいです。4年間様々なことがありましたが，どの場面を切り取ってみても，やはり自分は一人ではなかったし，一人だったら

ここまで来ることが出来なかったであろうと思っています。この大学生活4年間，そして社会に出るまでの22年間，支えてくれた家族や仲間達，先生方，そして多くの出会いに心から感謝したいと思います。

皆さん本当にありがとうございました。

1年間を振り返って

作業療法学専攻１年次
三　浦　拓　也

私が過ごした1年生として過ごした1年間はとても短く，なおかつ充実したものであったように思う。多くの先生方や先輩方からOTという職に就くための基礎知識を学べたこの1年間に私はとても満足している。

特にこの1年間で印象に残っている出来事は，9月上旬に参加した藤原茂先生の旅行ボランティアである。この旅行で私は先輩方や同級生と障害をもった方たちを介助していたのだが，その中で障害者の方の生き生きとした表情や明るく接してくださることにとても驚き，嬉しく思った。私の中でこの旅行の前は“障害をもってしまった方は落ち込んでいるのではないか”と考えていた。しかし，実際の姿は私の想像とは全く違い，とても楽しそうに見えた。藤原先生にOTとしての心構えや実際に支えていくときに大切な“生きがいを見つけること”の大切さを学ぶことができて，この旅行に参加して本当に良かったと思う。

学校生活では，18人という少ない人数でありながら，そんなことを感じさせない大きなパワーをもった仲間たちと過ごしている時間はとても楽しく感じる。この仲間たちと一緒に話をしたり，勉強したり，食事をしたりと1年間が始まったときにもっていた不安な気持ちは終わったころには全くなくなっていた。毎日この仲間たちと過ごしていて本当に楽しく，学校にいくのも必然と楽しくなっていくことを日々感じている。

また，私は医学部準硬式野球部に入部し，日々練習に励んだ。小・中・高とずっと続けてきた野球をここでも続けることを決めたのは，部活動勧誘のときからとても熱心に誘ってくださった先輩方がいたからである。この仲間たちと野球をすることはとても楽しく，トーナメントを勝ち進んでいくことの難しさも知ることができた。学校生活でも野球で知った友達も多くなり，交友の幅が広がったという点でも野球部に入部してよかったと思う。

この1年間で私は多くのことをいろいろなことから学んだ。これから先，今以上に学校生活は忙しくなっていくだろうが，1年間教わったことをこれからの学校生活や将来的にも生かしていけたらいいなと思う。

陸上生活を振り返って

看護学専攻４年次
菅　原　純　子

この度は，北医体・全医体においてリレー・走幅跳で成績が残せたことを大変光栄に思うのと同時に，部員の皆様と，部活を支えてくれている多くの皆様に感謝申し上げます。編入してからの２年間という大変短い間ではありましたが，部活は編入生活にとって無くてはならなかったものだと思っていますし，部活のおかげで充実した時間を過ごせたので大変感謝しています。

主な練習拠点である手形グラウンドには，私が主に取り組んでいた走幅跳を練習するにはあまりいい環境ではないという不安要素がありました。しかし不安要素を取り払えるような集中した練習ができ，大学自己ベストを出すことが出来ました。これも，支えてくれる部員の力添えと，部活の温かい雰囲気や部員の陸上に対する熱い姿勢に触れ，共に自身を研鑽することに専念できたからだと思っています。医学部陸上部は大所帯であるため，部員の数だけ練習のスタイルや競技への取り組み方に違いがあります。そのため，自分にとって理想だと思うスタイルを持つ部員に出会えたり，見習うことも多くあったりと，大きなメリットがありました。その半面，私はこの２年間で，走幅跳に関することや，自己の限界に挑戦する陸上競技の魅力や大変さなどを後輩に十分に伝えられなかったと感じており，そこはとても残念に感じています。

競技の面で今年一番印象に残ったのは北医体でのマイルリレーです。大学生活で初めての出場でしたが，過去に，精神面で自分に負けてしまったという悔しい思いがある種目だったので，最後である今年は絶対出場して雪辱を晴らそうと心に決めていました。個人的な思いが大きかったから出場したということもありましたが，リレーメンバーの力がなかったら走れなかったと思います。マイルリレーは大会の最終種目として行われ大変盛り上がる陸上の華とも言える競技です。4人だからこそ，普段は絶対出せない力がレースで出せるし，多くのドラマが生まれる競技でもあると思います。北医体で1位だった学校はレベルが高い走りをしていました。しかし，気持ちで負けることなく，メンバーを信頼し，自分たちの力以上のものを出せたいいレースが出来ました。このレースをきっかけに，ひとつ成長できたのではないかと思っています。

競技以外の面で今年の陸上部は，東医体の主幹という大きな役割があり，昨年度は入部したばかりで他の部員に助けられてばかりだったのから一転し，医学部陸上部の一部員として役割を果たさなくてはならないことを自覚した１年でした。また，普段は競技に参加する立場ですが，大会の運営という仕事を経験することによって，多くのことを学ぶと同時に，普段部活の運営をしてくれている幹部やサポートしてくれている部員に，改めて感謝しなくてはならないと痛感しました。

その他にも，本当に多くのことを学ばせていただきました。部活は，楽しめる場所であると同時に，社会に出てから大切になってくる精神的な強さや責任感などについて多く学べる貴重な場所であると思います。最後の1年にそういったことを意識して部活に参加できたことは自分にとってプラスになったのではないかと感じています。ここで学んだことを自分の強みにしていきたいです。本当にありがとうございました。

医学部柔道部に入部して

作業療法学専攻３年次
吉　田　雄　哉

私が柔道を始めて今年で8年目になります。中学，高校とずっと柔道部に所属して活動してきましたが，ケガが多く，成績も県でベスト16がやっとという微妙な成績しか収めることができませんでした。高校最後の試合で負けたときに「もう柔道をやることはないだろうな」と感じたことは覚えています。その後，大学に入学して何か新しいスポーツを始めようと思っていましたが，コレだ！というものもなく悶々と過ごしていました。柔道部への入部も考えましたが，秋田大学の柔道部は高校時代の県チャンピオンクラスが切磋琢磨しているレベルの高い部活のため，その考えは一瞬で消えました。そんな鬱々とした時分に，友人から医学部柔道部がある，という知らせを受け，軽い気持ちで見学に行ったのが入部のきっかけでした。

医学部柔道部は上級生と下級生仲がよく，楽しい雰囲気の部活です。部員は小学生の頃からずっと柔道をしてきたベテランから，大学に入って始めた初心者まで，幅広いレベルの人が活動しています。指導者はいないため，主将を中心にみんなで意見を出し合って，日々技術・体力の向上に努めています。

今年は，東医大の主幹校が秋田大学のため，地元で行われる大会で入賞することを目標に，全員が例年以上に練習に打ち込んできました。通常，東医大には保健学科の学生は出場することはできないのですが，柔道競技の場合は，コメディカル部門という形で医学科以外の学科の生徒も個人戦に出場できるため，私も1年生のころから東医大に出場し，1年生のときはベスト8，昨年は3位という結果を収めることができました。4年生になると実習と重なってしまうので東医大に出場することができません。そのため，今回が私にとって実質最後の大会であり，目標はでっかく優勝にして試合までに自分を追い込もうと決意しました。しかし，気持ちとは裏腹に度重なるテストのため部活にいくこともままならず，十分に調整することができませんでした。焦りもありましたが，当日は今までやってきたことをすべて出すことだけを考えて試合に臨みました。試合は，参加人数が昨年より少なく，またシードだったためいきなり準々決勝からのスタートでした。不安はありましたが，順調に勝ち進み決勝までコマを進めることができました。決勝の相手は去年の優勝者で，高校時代にも優勝経験のある実力者でした。結果は，背負い投げでみごとな一本負けをしてしまい，私の東医大は終わりました。内容には不満が残りましたが，準優勝という結果にはとても満足しています。

この結果は私一人の力では無く，熱心に指導してくれた先輩方，いつも応援してくれた同級生，嫌な顔一つせず練習相手になってくれた後輩みんなの協力があって得られたものです。この場を借りて感謝の気持ちを述べたいと思います。

サークル活動

ASMCの活動を通して学んだこと

秋田スポーツメディカルコンディショニング研究会 代表
理学療法学専攻３年次
池　田　光　範

はじめに，このサークルは私の先輩が立ち上げたものであり，私はその先輩から誘われて加入をしました。そしてその先輩たちが卒業され，私がこの活動を引き継ぐこととなりました。活動内容はスポーツに関わるトレーナーのような仕事に興味がある者たちで，テーピングやアイシングなどの知識・技術を練習すること，学ぶことです。私に引き継がれるまでは，先輩たちが病院の理学療法士の先生にアポを取り，いろいろと教わりに行っていたのですが，私に引き継がれてからは，そのような外出する機会が減ってしまいました。いかに，自主的に積極的に活動していくことが大変なことなのかを身を持って学んでいます。大学でのサークル活動は，楽しくて，行きたくなるようなものでなければ，人が集まらないと思いますが，そのような雰囲気や活動にするには，そこに所属する人たちの努力が必要不可欠であると思いました。今のASMCの状況は，各自で学ぼうという形になっていて，先輩たちのように病院の先生を訪問するようなことは出来ていません。それならば，私たち学生でも学べることはないかと思い，計画を練っています。今後は，「勉強会」という形をとって，定期的に集まってスポーツに関わる知識や技術などを中心に学んでいきたいと考えております。大学では自主自律の精神がよりいっそう求められます。このサークル活動で“自ら”動くことを学んでおります。

庭での１年

園芸農業クラブ saryo 代表
作業療法学専攻３年次
吉　田　雄　哉

「庭部，よろしくね。」

昼休みくつろいでいるときに先輩に言われた一言から，サークル代表としての仕事が始まりました。

作業療法において，園芸という活動は特に高齢者の方にとってなじみの深いアクティビティであり，臨床でも多く用いられている活動の１つでもあります。昨年先輩方の熱い思いから庭が形になったこともあり，今年は実際に花壇を造り，作物を育ててみることを目標としました。ただ，私をはじめ多くの人が庭造りを経験したことのない初心者ばかりだったため作業は難航しました。何をするにもみんなで話し合い方針を決めて，一緒になって作業して，時には先生方からのアドバイスを受けながら花壇は形になっていきました。

花壇には夏の花であるひまわりや朝顔，枝豆などの作物を実際に植えました。元は荒れ地で日当たりも良いとは言えないため，立派に育つか心配でしたが，梅雨の長雨にも夏の暑さにも負けずに立派に育ってくれました。芽が出てきた時の感動は今でも忘れられません。

この活動を通して，園芸活動が私たちにもたらす様々な効果を実際に学ぶことができたのではないかと思います。こうして１年間の活動を振り返ってみると，まだまだやりたかった活動の多さに驚くと同時に園芸活動の奥深さを実感します。残念ながら私たちはこれから実習のため学校に来る機会が減ってしまいますが，後輩たちには私たちの作った土台の上にさらに素晴しい花を咲かせてくれることを期待しています。最後に，忙しい実習の合間を縫って手伝ってくれた４年生の先輩方，サークルのメンバー，多くの先生方にこの場を借りて感謝を述べて終わりたいと思います。

環 境 の 大 切 さ

区画活性課 代表
作業療法学専攻３年次
麓　　文　太

私は作業療法学を学ぶものとして，環境の重要性というものを認識している。環境の意味は色々あるが，自分以外のすべてが環境であり，教室や友達，まわりの人々すべてが環境である。環境が私たちの生活に多くの影響を与えている。たとえば,教室が汚かったり，周りがうるさかったりしたら，講義中集中できないかもしれないし，登校途中に嫌なことがあったら，学校に着いてからも嫌な気分は続き，勉強どころではないかもしれない。区画活性化としては学内の使われていない部分を利用し，学内の環境を改善することで，学生によりよい影響を与えることができれば良いと思っている。

使われていない区画利用として，今年度は園芸農業クラブと協力し，花壇を作成して環境の改善を図った。残念ながら今年は草取りや花壇の土台作りに時間がかかってしまい8月頃に花が見ごろを迎えたが，来年度はもう少し早く花を咲かせ，長い期間庭を楽しめるようにできたらいいなと思う。また，今年は庭の認知度が低く，作業療法以外の学生が庭を訪れるということがあまりなかったので，来年度はもっと多くの学生が見に来てくれたらいいなと思い，私たちの今年度の活動の最後として庭の宣伝ポスターを作成したので，少しでも見学者が増えたらいいと思う。

最後になるが，このような活動に協力してくれた先生の方々，諸経費の提供をしてくださる大学側に感謝している。

学務委員会，この１年を振り返って

学務委員長
工　藤　俊　輔

昨年,大学院部局化に伴う組織改正により，これまでの看護学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻の３専攻は基礎看護学講座，臨床看護学講座，母子看護学講座，地域・老年看護学講座，理学療法学講座，作業療法学講座の６講座に改変されました。そのため所属名も,大学院医学系研究科保健学専攻になり，組織上，大学院研究科保健学専攻から教員が保健学科に派遣され教育活動を行うというシステムになりました。以下保健学専攻及び保健学科の動向を紹介したいと思います。

（保健学専攻及び保健学科の動向）

保健学専攻での平成21年度の学務に関わる大きな動きとして1）外部評価の実施　2）大学院博士前期課程におけるがん看護専門看護師教育課程の設置　3）修士課程第二期生の終了　がありました。1）については院生に対する授業評価の結果，2007年度は理解度の評価を除いて全て4以上の値を示し，教員が熱意をもって教育し学生に伝わっていることが分かり満足度が高かったということが明らかになりました。しかし，2008年度は全ての項目で3.5以上でしたが，2007年度の結果と比較して理解度でやや向上は認められるも他の値は低下していました。特に，熱意，工夫，満足度にばらつきの値が高いことから院生のニードにあった授業の進め方について，さらなる取り組みが必要であることが課題となりました。学部教育の評価では年度別授業評価の結果から教育意欲，態度，技術，計画の全ての項目において，学生評価が改善していることが明らかになっています（図1）。

年度	学生評価	教育意欲	態度1	態度2	技術1	技術2	技術3	技術4	計画1	計画2
平成17年（2005）	平均値	4.2	3.7	3.5	3.9	3.9	3.8	4.2	4.1	3.9
	SD	0.29	0.53	0.47	0.52	0.41	0.40	0.27	0.35	0.40
平成18年（2006）	平均値	4.2	3.7	3.5	3.9	4.0	3.9	4.3	4.2	3.9
	SD	0.39	0.57	0.43	0.57	0.50	0.49	0.43	0.47	0.37
平成19年（2007）	平均値	4.3	3.9	3.7	4.1	4.1	4.0	4.4	4.3	4.1
	SD	0.35	0.57	0.44	0.44	0.44	0.46	0.38	0.40	0.35
平成20年（2008）	平均値	4.3	3.9	3.7	4.1	4.1	4.0	4.3	4.3	4.1
	SD	0.30	0.44	0.40	0.46	0.37	0.41	0.33	0.32	0.31

図１　各年度別学生による授業評価（５段階評価）

さらに，保健学科学生の留年率・退学率については，留年率は平成17年から20年まで1.3％（6人）から2.4％（8人）で平成17年度の全国理系4年生大学6.0％と比較すると少なく，休学率は1.3％（6人）から2.7％（9人）で平成17年度の全国理系4年生大学2.4％と比較するとほぼ同程度もしくはそれ以下であることが分かりました。

退学率は0から0.9％（4人）で平成17年度の全国調査1.81％と比較すると半分以下となっています。このことは保健学科におけるクラス担任制などのきめ細やかな学生指導の成果を示しているのではないかと考えています。また，保健学科生のこの4年間の国家試験合格率は看護学専攻で，看護師が97％～98％の合格率，保健師は91.4％から100％，助産師は4年間100％で，いずれも全国平均より高い状況でした。理学療法学専攻では95.2％の時期が1回ありましたが，それ以外の3回は100％，作業療法学専攻ではこれまで100％の合格率を示しています。いずれの専攻でも全国平均より高い値を示していました。今後の課題としては，総括的な授業・教育評価中心の取り組みからより個別的な形成的評価中心の取り組みに変えていくことが上げられました。外部評価を担当された各委員からも保健学専攻及び保健学科の教育活動については，概ね好意的な評価を頂きました。

2）大学院博士前期課程におけるがん看護専門看護師教育課程の設置については，その設置が認定され，初めての試験も行われました。1名の合格者があり，関係するカリキュラム・シラバスの作成や非常勤講師の選定が行われました。このがん看護専門看護師の養成は秋田大学大学院医学系研究科の大きなプロジェクトでもあり，今後の進展に大きな期待がかけられています。3）修士課程第二期生の終了については，修士論文の最終審査会が本年2月に行われ，リハビリテーション科学領域7名，看護学領域6名の公開審査が行われました。2回目の審査会ですが皆正装し，緊張した面持ちで研究報告を行っておりました。審査は，統計処理の妥当性や仮説の論証等含め厳しい質疑も多々ありましたが，概ね無事最終審査を終えることができました。ただリハビリテーション科学領域で研究結果の申請が間に合わず延長になった院生と看護学領域で最終審査当日体調不良で欠席したため同様に延長になった院生が各1名生じました。新年度における審査会での発表に期待しているところです。

ー学生の動向ー

昨年度の一般選抜の入学試験の倍率は前期日程で看護学専攻が（1.8）倍，理学療法学専攻が（2.3）倍，作業療法学専攻が（2.5）倍，後期日程は看護学専攻が（7.0）倍，理学療法学専攻が（7.5）倍，作業療法学専攻が（6.3）倍でした。全体の倍率は昨年度と比較し，看護学専攻は若干上昇し，理学療法学専攻は減少，作業療法学専攻はほぼ現状維持になっていますが少子化の影響は様々な形で押し寄せているようです。また，就職状況ですが各専攻とも進学者を除きほぼ全員医療機関を中心とした職場に就職できました。事故関係では昨年のような自動車による自損事故や，自転車で自動車に衝突したというようなことはなく，足の捻挫等，軽微な事故報告が2名あった程度です。ただご存じのような新型インフルエンザの流行で2010年1月31日までに秋田大学全体で359名の発症があり，保健学科でも36名（7.8%）の感染者が生じ，一部実習等に影響が出ました。2月現在ではほぼ収束してきたかなという感じですが今後再燃することも考えられ，予防接種の励行を行っているところです。経済的な問題では授業料免除の許可者等について，以下のような状況でした。前期分申請者85名（保健学科に占める割合は18.6％），昨年は75名（16.3%）でした。全額免除２名（0.4％），半額免除64名（14％），3／1免除15名（3.3%），不許可4名（0.8％），後期分は申請者93名（20.3%），昨年は79名（17.2%）でした。そのうち全額免除３名（0.6％），半額免除68名（14.8%），3／1免除14名（3%），不許可8名（1.7%）でした。全在学生

458名の20%近く，つまり5人にひとりの授業料免除申請があり，学生の経済的支援は大きな課題となっています。また，学生活動のうれしいニュースのひとつとして医学部陸上競技部に所属する看護学専攻4年次菅原純子さんが昨年に引き続き第68回全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会走り幅跳びで優勝しました。また，400mリレーでも準優勝し，看護学専攻3年次菅原夏希さんと一緒に学長表彰の候補者として大学に申請しています。さらに，作業療法学専攻3年次吉田雄哉君も第52回東日本医科学生総合体育大会柔道団体戦で準優勝し，医学部長表彰の候補者として同様に申請しています。今後とも後援会員皆様の益々のご支援，ご協力をお願いする次第です。

平成21年度入学試験について

入試委員長
水　沼　秀　夫

平成21年度入学試験は，平成20年8月30日（土）の３年次編入学試験を皮切りに，大学院修士課程，新設された博士後期課程の入学試験を経て，推薦入学試験，一般選抜の前期日程と後期日程まで支障なく執り行われ，４月にはそれぞれの入試に合格者を，晴れて秋田大学の保健学科および大学院保健学専攻の新入学生として無事に迎え入れることが出来ました。

今年度の入試業務上の大きな変化は，本年度から新たに博士後期課程が設置されたことによる選抜が加わったことです。この入学試験は設置認可後にしか実施できないため，本年度は平成21年１月24日に，前日の学部生の推薦入学試験に引き続いて行われるという変則的な日程でした。22年度からは前期課程（修士課程）と同日に行われることになりますが，またひとつ入学試験が増えて，ますます多種の入学試験を実施しなければならなくなりました。

学部生の入学試験は３年次編入学試験が看護学専攻20名の受験者に対して行われ，10名が入学しました。理学療法学専攻，作業療法学専攻においては，本年度も例年と同じく出願者がありませんでした。

推薦入学試験は，各高校から推薦された生徒（看護学専攻は各高校から３名以内，理学療法学専攻と作業療法学専攻は各高校から２名以内）を対象に看護学専攻は面接，理学療法学専攻と作業療法学専攻は小論文試験と面接が保健学科を試験場にして実施され，看護学専攻は43名の受験者に対して16名，理学療法学専攻は30名の受験者に対して5名，作業療法学専攻は16名の受験者に対して6名が合格しました。昨年に比べると，受験者数は３専攻とも減少しました。

理学療法学専攻の社会人特別選抜試験も同日に行われ，社会人選抜は６名が受験し，１名が合格しました。社会人特別選抜試験は本年度をもって募集中止になります。

一般選抜も保健学科を試験場として行われました。前期日程試験は，２月25日に，英語

に加えて３専攻ともに面接，によって個別学力検査が行われました。看護学専攻は，志願者77名，受験者65名，合格者42名，理学療法学専攻は，志願者23名，受験者17名，合格者10名，作業療法学専攻は志願者25名，受験者20名，合格者10名でした。

後期日程試験は，３月12日に小論文試験と，面接の個別学力検査が行われました。看護学専攻は，志願者119名，受験者35名，合格者17名，理学療法学専攻は，志願者15名，受験者3名，合格者2名，作業療法学専攻は志願者19名，受験者8名，合格者3名でした。前期日程と後期日程を合わせた一般選抜の志願者数，受験者数は，昨年に比べて，３専攻とも大きく減少しました。理由ははっきりしませんが，看護学専攻に限っていえば岩手県からの志願者，入学者が昨年度に比べて大きく減少したこと，日赤秋田短期大学の看護学科が４年制化したことが影響しているのかもしれません。昨年度と比べて志願倍率の減少はありましたが，合格者の得点を見れば，本年度も優秀な学生諸君を迎え入れることが出来たと思います。

18歳人口の減少が引き続く中，公私立大学医療系学部の新増設などによる受験生の奪い合いなど秋田大学保健学科を巡る環境が厳しくなりつつあるなかで，今後も優秀な志願者を多数集めていくためには受験生・保護者や高校教員に対する秋田県内外に秋田大学保健学科の優れた点や知名度を広めていくための持続的活動になお一層力を入れていくことが欠かせないと考えています。

ご入学を祝して

放送大学秋田学習センター所長
吉　崎　克　明

ご子弟様のご入学，そして新たなご出発に，ご家族の皆様もお慶びのことと心からお祝い申し上げます。

私は秋田大学医学部保健学科の教員でしたが，大学院医学系研究科博士前期課程が設置された１年後（平成20年３月）に定年を迎えました。　現在は放送大学秋田学習センター（秋田大学内）に勤務して，早くも１年が過ぎました。

この度，「後援会だより」への執筆依頼を受けて始めて，後援会のような組織は放送大学にはないことに気が付きました。秋田大学医学部では私的に経費を負担しなければならない学内外での様々な実習や行事があり，学生自身では経済的に解決できないことがあります。一方，放送大学の学生は社会人や定年を迎えられた方が多く，ほとんどが自立しておられるので行事等の経費は自分で負担することができます。この点が後援会の必要性において違っているところではないかと思います。

放送大学は，16歳以上なら誰でも年齢を問わず無試験で入学でき，自宅でいつでも１科目からでも学習できるという，国が「特殊法人放送大学学園」として設置した通信制大学です。勿論，卒業すれば学士（教養）の学位を，また，大学院修士課程もありますので，修士

号の学位を取得できます。秋田県では放送大学の名称は知っておられても内容をほとんどご存じないのが大方であります。全国在学生総数は８万人を超えますが，そのうち秋田学習センターに登録した学生数は５５０人程度です。本部は千葉市幕張にあり，各県に最低１カ所，全国には５０の学習センターがあります。在学生は年２回実施される単位認定試験の受験，面接授業の受講，図書室での自習，あるいは，諸々の疑問や質問の相談のときに登録した地域の学習センターを利用します。放送授業や面接授業では秋田大学の医・保健学科の先生にもご協力を仰ぎ，基礎的な医，看護，理学療法，作業療法の各学問領域関連の授業を担当して頂いていますが，それは大変好評です。医・保健学科の先生の講義が如何に高度な学術研究を基盤として構築された内容のものであるか，また如何に丁寧でわかりやすい講義であるかを窺い知ることができます。学習センターでの行事として，入学式と修了式・卒業式（修士号・学士号の学位記授与伝達式）を年２回，研修旅行，学生交流会などを催行しています。

放送大学について駆け足でご紹介しましたが，私にとって秋田大学，放送大学を問わず，ひたむきに学問に精進してきた学生が目的を達成した時の喜びを共に分かち合うことができる嬉しさ，感激に変わりはありません。私は，必死に学ぼうとする人たちに接すると，心から声援を送り何かをしてあげたいという気持ちになります。

ご子弟様の目的成就にはご家族の皆様のご支援とご協力がどれほど心強いものとなるか計り知れず，後援会の役割は甚大なものと推察します。微力な私ではありますが，皆様と同様に学ぶ人たちへの支援をして参りたいと考えている次第であります。

イギリスのホスピスにおけるリハビリテーション

理学療法学専攻
進　藤　伸　一

昨年の6月から約半年，「ホスピスにおけるリハビリテーション」をテーマに，ロンドンにあるセント・ジョセフ・ホスピスで勉強してきました。セント・ジョセフ・ホスピスは，イギリスで最も古い，そして最も大きいホスピスであり，現代ホスピスの創始者シシリー・ソンダースが，疼痛緩和の研究をしたところとして知られているホスピスです。

日本では一般に，ホスピスはがんの末期患者さんが安らかに亡くなるための施設であり，理学療法士や作業療法士には関係ないところと思われているのではないでしょうか。ところがイギリスでは，理学療法士や作業療法士は看護師，医師，言語療法士に次いで多い職種で，リハビリテーション関連の職種を合計すると医師の数とほぼ同じになります。ですから，医師のいないホスピスが考えられないように，リハビリテーション職種のいないホスピスは考えられないのです。

イギリスでは，ホスピスが提供するプログラ

ムのなかで「在宅緩和ケア」が量的に最も多く，たくさんの専門看護師が毎日，患者さんの自宅を訪問して在宅療養をサポートしています。しかし，ホスピスの看護師だけで，すべてのニーズに応えるのではありません。まず，地域の家庭医と看護師による一般医療・看護ケアの提供があって，それに専門看護師が緩和ケアを上乗せし，必要なら訪問リハビリテーションも加えてサポートしていくのです。また，ホスピスが行う外来の「デイ緩和ケア」も盛んです。

これら地域緩和ケアプログラムの充実によって，ホスピスの「入院緩和ケア」の役割は変わってきました。現在は，①病院から直接自宅に退院できない患者さんのリハビリテーション，②疼痛などの症状コントロール，③看取り，が主な役割になっています。ですから，入院期間は平均13日と短く，実際にホスピスで亡くなる患者さんは，入院患者の約半数に過ぎません。

理学療法士や作業療法士は，ホスピスでどんな仕事をしているのでしょうか。いちばん大きな役割は，患者さんの離床と起居移動，日常生活活動の指導です。そして早期退院を促します。日本では，末期の患者さんを無理に家に帰さないで，ホスピスにおいてあげたらいいと思う人も多いでしょう。しかし，「在宅緩和ケア」が充実していて，自宅でも家族にあまり迷惑をかけずに生活できるイギリスでは，やはり家に帰りたいというのが患者さんの希望なのです。しかし，自宅で生活できるか心配です。そんな時，作業療法士が患者さんと一緒に自宅を訪問し，本人と家族に必要な福祉用具，家具の配置換えや住宅改修などを指導すると，不安が解消され安心して退院できます。理学療法士は，痛み，呼吸困難，リンパ浮腫など，患者さんの苦痛をできるだけ軽減する役割もあります。

一生のうち，国民の1/2から1/3はがんになり，1/3はがんで亡くなる時代です。がんのリハビリテーションと緩和ケアは，理学療法や作業療法士の新しい分野として，今後，発展が期待されています。

晴れの日に島を訪れた旅人
―　思い出の山旅，その１，屋久島　―

理学療法学専攻
岡　田　恭　司

「ひと月に35日雨が降る」と林芙美子が放浪記の中で記した屋久島。この小説は屋久島の名前を広く知らしめてくれたが，主人公が雨の降り続く屋久島で最期を迎えるくだりはあまりに寂しく，大学生の頃読んでから私は読み返す気になれないでいる。そんな湿っぽいイメージ漂う屋久島であるが，九州最高峰の宮之浦岳と第2位の永田岳があり，さらに世界遺産の屋久杉や映画「もののけ姫」のモデルとなった緑深い森もあるとあって，いつかは訪れたいものと思っていた。

平成20年11月，比較的晴れの確率の高い時期を選び屋久島へ空路向かった。残念なことに機上からは雲のため島の姿を望むことはで

きなかった。天気予報では明日は晴れ，あさっては雨だったので，明日のうちに宮之浦岳と永田岳に登って稜線近くの山小屋に泊まり，翌々日は屋久島名物の雨を浴びながら屋久杉を見て下山する計画にした。翌日朝5時くらいから歩き始めた。南の島でも朝は寒く，霜を踏みしめながら進む（図1）。日が登るにつれ明るい山肌が広がっていく。快晴である。本当にここは雨の屋久島だろうかと思ってしまう。登り始めてから3時間，私は憧れの宮之浦岳の頂上に立っていた。見渡す限り山，また山で，その先には輝く南の海が広がっている。

立ち去り難い思いを振り切り次の永田岳へ向かう。日は高くなり辺りは陽光に溢れている。人気の宮之浦岳に比べ，永田岳周辺は人一人いない。生来のへそ曲がりの私は人の少ない所がより好きである。急斜面だが誰もいない道がスルスルと永田岳の頂上へ続いている（図2）。しめしめと登り始めたが傾斜は正直で,何度か息を切らしながら,昼頃になってようやく頂上に辿り着いた。一人きりの山頂である。遠くにやってきたという思いに浸っているうちに小1時間が過ぎていた。やや疲れたと思いながら尾根筋の山小屋へ向かう。小屋は古いがよく整備されている。今日一日の快晴と素晴らしい山々に感謝しつつ，午後8時頃寝袋にもぐり込んだ。

翌朝4時ごろ目覚めると，外は屋久島らしい雨であった。雨具をつけ屋久杉が並ぶ大杉街道へと降りていく。1時間ほどで周囲を保護柵に囲まれた縄文杉に到着した。すごい，としか言葉がない。根元に近づいて上を見上げると，樹の先がかろうじて見える大きさである。縄文杉のあとも大王杉，夫婦杉，ウィルソン株など見事な杉が次々と現れる。遠い南のこの島で長い年月の象徴のような屋久杉に今触れている自分を不思議に感じる。屋久杉ツアーのガイドとツアー客の間を縫ってさらに下ると森の緑が深さを増してきた。この森が私の屋久島のイメージである（図3）。やがてベンチが並び,「もののけの森」と呼ばれる地点に到着した。朝方の雨は徐々に上がり，昼前に下山口にたどり着いた頃には青空が広がっていた。

帰りは鹿児島まで船を使うことにした。海の上から島を見てみたかったのである。船の出航まで土産物屋で地元の言い伝えの本をめくっていると,ふとある一行が目に留まった。「晴れの日に島を訪れた旅人は，いつの日か島に戻ってくる」，と。私は自慢ではないが伝説に弱い。そうか俺はいつかこの島に戻ってくるのか，そう思うと胸が少し熱くなった。この熱を冷ますため缶ビールと，さば節をしっかり抱えて船に乗り込んだ。海上から眺めた屋久島は，海に浮かぶ大きな大きな山の塊であった。

図1．朝霜，屋久島，花之江河にて

図2．永田岳へ続く道，屋久島

図3．緑深い森，屋久島，もののけの森あたり

新任教員紹介

菊　地　由紀子

保健学専攻　基礎看護学講座　基礎看護学分野

昨年4月、基礎看護学分野に着任いたしました。
3月まで臨床にいたため、看護を志す学生の皆さんには新鮮な刺激を受け、看護基礎教育に携わる一人としての責任の重さを感じながら、勉強させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

宗　村　暢　子

保健学専攻　臨床看護学講座　成人看護学分野

着任して間もなく1年を迎えようとしています。この1年は、学生の看護に対する新鮮な思いに多くの刺激を受けました。看護することのよろこびや楽しさを感じてもらえるよう、これからも努力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

岡　田　恭　司

保健学専攻　理学療法学講座　基礎科学分野

2009年４月より整形外科学、運動学等を担当しております。当講座は強力な教授陣、心優しく学究肌、姉御肌の中堅から家事や国際情勢に詳しい若手までタレント揃いです。私も個性派集団の一員として良い理学療法士育成のため全力を尽しますので、どうか宜しくお願いいたします。

平成21年度秋田大学医学部保健学科入学試験実施状況

専攻		募集人員										志願者数										受験者数									
		推薦Ⅱ		前期		後期		社会人		合計		推薦Ⅱ		前期		後期		社会人		合計		推薦Ⅱ		前期		後期		社会人		合計	
看護学	計	15		40		15		−		70		43		77		119		−		239		43		65		35		−		143	
	男	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	39	10	67	20	99	−	−	34	205	4	39	10	55	9	26	−	−	23	120
理学療法学	計	5		10		2		1		18		30		23		15		6		74		30		17		3		6		56	
	男	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	15	15	12	11	10	5	4	2	41	33	15	15	8	9	1	2	4	2	28	28
作業療法学	計	5		10		3		−		18		16		25		19		−		60		16		20		8		−		44	
	男	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	12	9	16	6	13	−	−	19	41	4	12	8	12	1	7	−	−	13	31
合計	計	25		60		20		1		106		89		125		153		6		373		89		102		46		6		243	
	男	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	23	66	31	94	36	117	4	2	94	279	23	66	26	76	11	35	4	2	64	179

専攻		合格者数										辞退者数										入学者数									
		推薦Ⅱ		前期		後期		社会人		合計		推薦Ⅱ		前期		後期		社会人		合計		推薦Ⅱ		前期		後期		社会人		合計	
看護学	計	16		42		17		−		75		0		3		2		−		5		16		39		15		−		70	
	男	1	15	7	35	5	12	−	−	13	62	0	0	0	3	0	2	−	−	0	5	1	15	7	32	5	10	−	−	13	57
理学療法学	計	5		10		2		1		18		0		0		0		0		0		5		10		2		1		18	
	男	4	1	6	4	0	2	1	0	11	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	6	4	0	2	1	0	11	7
作業療法学	計	6		10		3		−		19		0		1		0		−		1		6		9		3		−		18	
	男	1	5	4	6	0	3	−	−	5	14	0	0	0	1	0	0	−	−	0	1	1	5	4	5	0	3	−	−	5	13
合計	計	27		62		22		1		112		0		4		2		0		6		27		58		20		1		106	
	男	6	21	17	45	5	17	1	0	29	83	0	0	0	4	0	2	0	0	0	6	6	21	17	41	5	15	1	0	29	77

平成21年度日本学生支援機構奨学生数

区　　分	人　数
第一種奨学生（無利息）	105名
第二種（きぼう21プラン）奨学生	134名

平成21年度卒業生進路状況

平成22年４月現在

専攻名	就職者数						進学者数						その他	合計
	県内		県外		計		県内		県外		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
看護学専攻	4	32	4	38	8	70	0	1	0	0	0	1	0	79
理学療法学専攻	4	2	4	6	8	8	0	0	0	1	0	1	0	17
作業療法学専攻	6	4	3	3	9	7	2	0	0	1	2	1	1	20
計	14	38	11	47	25	85	2	1	0	2	2	3	1	116

県内進学者は就職進学者で就職者数にも含まれている。

平成21年度秋田大学医学部保健学科後援会 決算書

収　入　額　4,816,912円

支　出　額　4,326,606円

差引残額　　490,306円（次年度へ繰越）

収入の部

項　　目	予算額	決算額	差引増減	摘　　要
前年度より繰越	836,167	836,167	0	
会　　費	4,440,000	3,980,000	△ 460,000	@40,000×95名 @20,000× 9 名
雑　収　入	3,000	745	△ 2,255	預金利息
計	5,279,167	4,816,912	△ 462,255	

支出の部

項　　目	予算額	決算額	差引増減	摘　　要
学部協力費	350,000	380,000	△ 30,000	臨床実習指導者連絡協議会， 特別講演会補助，外部評価関係経費， 教育賞（H21）
課外活動助成費	200,000	120,000	80,000	団体助成（4団体）
行事助成費	1,100,000	1,027,962	72,038	新入生オリエンテーション， 見学実習・解剖体火葬時バス代
施設見学謝礼	300,000	300,000	0	@100,000×3専攻
会　議　費	150,000	94,063	55,937	総代会・理事会
広報活動費	400,000	218,500	181,500	後援会だより（No.19）
臨地臨床実習費	300,000	300,000	0	実習指導経費，車賃
国家試験対策経費	1,200,000	1,122,920	77,080	国家試験（模擬）受験料， 国家試験関係図書
卒業祝賀会経費	1,000,000	714,780	285,220	卒業祝賀会，卒業記念品， 卒業記念集合写真
雑　　費	50,000	9,436	40,564	電報料，切手代
予　備　費	229,167	38,945	190,222	振込手数料
計	5,279,167	4,326,606	952,561	

平成22年度秋田大学医学部保健学科後援会 予算書

収　入　額　4,931,306円

支　出　額　4,931,306円

差引残額　　0円

収入の部

項　　目	前年度予算額	本年度予算額	前年度比	摘　　要
前年度より繰越	836,167	490,306	△ 345,861	
会　　費	4,440,000	4,440,000	0	@40,000×106名 @20,000×10名
雑　収　入	3,000	1,000	△ 2,000	預金利息
計	5,279,167	4,931,306	△ 347,861	

支出の部

項　　目	前年度予算額	本年度予算額	前年度比	摘　　要
学部協力費	350,000	350,000	0	臨床実習指導者連絡協議会， 特別講演会，教育賞
課外活動助成費	200,000	170,000	△ 30,000	団体助成、学部長表彰
行事助成費	1,100,000	1,100,000	0	新入生オリエンテーション， 見学実習・解剖体火葬時バス代
施設見学謝礼	300,000	300,000	0	@100,000×3専攻
会　議　費	150,000	150,000	0	総代会・理事会
広報活動費	400,000	300,000	△ 100,000	後援会だより（No.20）
臨地臨床実習費	300,000	300,000	0	実習指導経費，車賃
国家試験対策経費	1,200,000	1,200,000	0	国家試験（模擬）受験料， 国家試験関係図書
卒業祝賀会経費	1,000,000	800,000	△ 200,000	卒業祝賀会，卒業記念品， 卒業記念集合写真
雑　　費	50,000	50,000	0	電報料，切手代
予　備　費	229,167	211,306	△ 17,861	振込手数料
計	5,279,167	4,931,306	△ 347,861	

平成22年度秋田大学医学部保健学科後援会役員・総代名簿

役職名		氏名	学生	
			専攻	氏名
会長		波多野　善　明	作業療法	花　奈
副会長		泉　敏　彦	看護	怜　美
〃		佐々木　敏　昭	看護	学
理事		三　浦　清　徳	看護	彩　歌
〃		船　木　秀　行	看護	佳　秀
〃		照　井　俊　之	理学療法	佳　乃
〃		加賀美　圭　二	作業療法	開
監事		栗　林　恵　子	理学療法	由　佳
〃		中　道　博　之	看護	望
総代	4年次	(泉　敏　彦)		
	〃	(三　浦　清　徳)		
	〃	(栗　林　恵　子)		
	〃	(波多野　善　明)		
	3年次	(佐々木　敏　昭)		
	〃	(船　木　秀　行)		
	〃	(照　井　俊　之)		
	〃	(加賀美　圭　二)		
	2年次	石　黒　康　夫	看護	なつ美
	〃	(中　道　博　之)		
	〃	大　倉　忠　和	理学療法	和　貴
	〃	久保田　政　昭	作業療法	遙
	1年次	小　泉　典　彦	看護	恵里子
	〃	渡　辺　文　孝	看護	泰　代
	〃	小田嶋　剛	理学療法	鷹　哉
	〃	伊　藤　和　男	作業療法	愛　依

○顧問

氏名	役職名
浅　沼　義　博	保健学科長・教授
石　井　範　子	看護学専攻主任･教授
工　藤　俊　輔	理学療法学専攻主任･教授
新　山　喜　嗣	作業療法学専攻主任･教授

大学の行事等（平成21年４月～平成22年３月）

21. ４．１（水）	学年開始，前期開始
４．３（金）	２年次以上健康診断
４．６（月）	２年次以上ガイダンス
４．７（火）	平成21年度入学式（秋田県民会館），新入学生父母懇談会
４．７（火）	新入学生ガイダンス
４．14（火）	学生定期健康診断（新入学生）
６．１（月）	秋田大学創立記念日
８．６（木）	夏季休業開始（９月30日まで）
８．８（土）	秋田大学オープンキャンパス
８．28（金）	３年次編入学試験
９．18（金）	３年次編入学試験合格者発表
９．26（土）	公開講座「健康生活最前線！～保健学からの挑戦～」（10月17日まで）
９．30（水）	大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期・後期課程)入学試験
９．30（水）	前期終了
10．１（木）	後期開始
10．14（水）	大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期・後期課程)入学試験合格者発表
12．26（土）	冬季休業開始（１月８日まで）
12．28（月）	仕事納め
22. １．４（月）	仕事始め
１．16（土）	大学入試センター試験（17日まで）
１．22（金）	入学試験（推薦入学Ⅱ）
２．８（月）	入学試験合格者発表（推薦入学Ⅱ）
２．18（木）	助産師国家試験
２．19（金）	保健師国家試験
２．20（土）	春季休業開始（４月２日まで）
２．21（日）	看護師国家試験
２．25（木）	入学試験（前期日程）
２．28（日）	理学・作業療法士国家試験
３．９（火）	入学試験合格者発表（前期日程）
３．12（金）	入学試験（後期日程）
３．16（火）	大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期課程)入学試験(第２次募集)
３．22（月）	平成21年度卒業式（秋田県民会館）・卒業祝賀会
３．23（火）	入学試験合格者発表（後期日程）
３．23（火）	大学院医学系研究科保健学専攻（博士前期課程）入学試験（第２次募集）合格者発表
３．26（金）	保健師・助産師・看護師国家試験合格者発表
３．27（土）	後援会総代会・理事会
３．31（水）	理学・作業療法士国家試験合格者発表
３．31（水）	後期終了，学年終了

秋田大学医学部保健学科後援会会則

（目的及び事務所）
第１条　本会は秋田大学医学部保健学科（以下「保健学科」という。）の教育活動に協力・援助することを目的とし，事務所を本学部内に置く。
（会　員）
第２条　本会は，保健学科に在学する学生の父母をもって組織する。
（事　業）
第３条　本会の目的を達成するために次の事業を行う。
一　保健学科整備に伴う諸事業の援助・後援
二　学生の教育活動の援助・後援
三　保健学科と家庭との連絡
四　その他本会の目的を達成するために必要な事業
（役　員）
第４条　本会に次の役員を置く。
一　会　長　１名　　会を代表し，会務を総括する。
二　副会長　２名　　会長を補佐し，会長不在のときその職務を代行する。
三　理　事　４名　　理事会を構成し，事業の執行，運営に当たる。
四　監　事　２名　　会計を監査する。
第５条　役員は総代会で選出し，任期は１年とする。
（総代会）
第６条　本会に総会に代わる組織として総代会を設ける。総代の選出は次のとおりとする。
一　総定員　16名（各学年４名ずつとする。）
二　総代は役員を兼ねることができる。
第７条　総代会は毎年１回開催し，次の事項を審議する。
一　予算の議決
二　決算の承認
三　事業の報告
四　役員の選出
五　その他必要事項
なお，必要に応じ臨時総代会及び総会を開催することがある。
（理事会）
第８条　本会の事業執行機関として理事会を置く。理事会は会長，副会長及び理事をもって構成し，総代会の議決事項の執行並びに会の運営に当たる。
（会の招集）
第９条　総代会（総会を含む。）及び理事会は会長がこれを招集し，その議長となる。会議は原則として出席会員をもってこれを開き，その過半数をもって議決する。ただし，必要やむを得ない事情のときは文書等によって意見を聴し，会議に代えることがある。
（顧　問）
第10条　本会に顧問を置き，保健学科長及び各専攻主任をもって充てる。
（職　員）
第11条　本会に次の職員を置く。
書記若干名　書記は総代会の承認を経て会長が委嘱し，庶務会計の事務に当たる。
（会　費）
第12条　本会の会費は，40,000円（３年次編入学生は20,000円）とし，原則として入会時に納入するものとする。納入した会費は返還しない。
（会計年度）
第13条　本会の会計年度は毎年４月に始まり翌年３月31日に終わる。
（補　則）
第14条　本会則の変更は総代会の議決によらなければならない。
附　　則
1　この会則は平成２年４月12日から施行する。
2　第６条の規定にかかわらず，総代の数は，平成２年度は４名，平成３年度は８名とする。
附　　則
1　この会則は平成14年12月20日から施行する。
2　第６条の規定にかかわらず，総代の数は，平成17年度までは12名とする。
附　　則
この会則は平成17年２月１日から施行する。
附　　則
この会則は平成22年４月１日から施行する。

後援会だより　通巻20号　2010. 4

発行　秋田市本道一丁目１の１
秋田大学医学部保健学科
後援会
☎（018）884－6543